

終業式の話「共感する・つながる」7/20

明日から夏休みです。1年生は、初めての小学校でしたが、この1学期間、とても元気に過ごしていました。4月よりも、今の方がずっと元気で楽しそうですね。2年生はすっかりお兄さん、お姉さんになりました。素敵です。そして、6年生はもちろんですが、とくに5年生は高学年になって、本当に立派になったと思います。さすがです。

さて、夏休みの直前に、被災地の小学生に暑中見舞いを送る取り組みをしました。これは、3年生と4年生、6年生です。

送り先は、岩手県大槌町の4つの小学校です。でも、4つの小学校のうち3校は大震災の影響で校舎が使えません。今は、吉里吉里小学校というところで4校が合同で授業をしています。

どんな暑中見舞いを書いてくれたか、少し紹介します。

「お元気ですか。もうすぐ夏休みですね。一緒に勉強がんばろう。僕は、ボランティアに言った先生の話聞いて、泣いてしまいました。だけど一緒にがんばりましょう。」

「私たちは何も分からないと思いますが、この手紙で応援できるといいです。私のクラスでは虫取りが流行っています。そっちはどんな虫がいますか。日本のみんなが応援しているよ。」

「今は暑いですが負けないで下さい。私たちが言っただけでは、少しの力にしかたれないと思うけど。私が今できることは祈ること。Fight。みんなが幸せになりますように。」

「東北地方のことは、TVで見たり、ボランティアに行った先生に話を聞いたりして、とても心配です。皆さんが早く今まで通りの生活に戻れるように。小さな力ですが、私たちも応援しています。」

みんな、相手のことをよく考えて書いてくれています。相手の状況を慮り、気持ちを察してくれていることがよく分かります。その思いは、被災地の子どもたちにもきっと伝わったはずですよ。

募金をしたり、水や食料を届けたり、瓦礫の撤去を手伝ったりすることも大切です。でも、暑中見舞いなどで言葉を伝えたり、自分たちの思いを絵や音楽で表現したりすることも大切なことです。

お知らせを出しましたが、いろいろなポスターコンクールもあります。今年は、どれも、大震災にかかわるテーマのものとなっています。ポスターを描きながら、被災地のお友達と気持ちがつながるのではないのでしょうか。

この夏休みは、「ハチドリの一とせずく」の心になって、小さなことを一つ一つがんばってほしいなと思います。

今日・明日と台風の影響が心配ですが、この夏休みも事故や怪我がないように過ごしてください。9月1日、元気な笑顔でお会いしましょう。

暑中 お見まいもうしあげます。
 みんなたいへんですね。
 やたしたちはなにもわからな
 と思います。
 ますが、この手紙でようえん
 できるといいです。
 やたしのクラスでは虫とりか
 はわっています。
 そっちはどんな虫がいますか？
 日本のみんながおうえんして
 いるよ。

かん
 ばね

田中 天女

吉里 吉里小学校の三年生のきみか、
 お元気ですか。
 もうすぐ夏休みですね。
 いよいよべん 虫かんばろう。
 ぼくはポランテアに行った先生の話を聞
 いて泣いてしまいました。ただけ
 じゃいかにばりま
 います。
 これからもっと暑い日が続きます
 お体に
 気を付けて元気でいてください。
 今

堀田 悠羽

暑中 お見まい申し上げます。☀️
 初めまして。私は東京都東久留米市の六年生です。
 東北地方のことは、ＴＶで見たり、ポランテアに行
 った先生に話を聞いたりして、とても心配です。
 みなさんが、早く今まで通り
 の生活に戻れるように、学校で
 は、お金をしました。小さな力
 ですが、私たちも応援して
 います。

菊池 曆

暑中お見舞い申し上げます。☀️
 さくらには、お見舞いで大変な思いをしてくると思
 つらいこともあったと思ひます。だけの今の暑
 ら乗りこえていけると思ひます。
 今は暑いですすが負けな
 今
 私達が言うだけでは、少しの力にかなわな
 と思ひうけれど、私が今でキることは祈ること
 Fight "F" みんなが
 新倉有紗

始業式の話「共感する・つながる」9/1

元気なあいさつで2学期が始まりました。学校としては大きな事故もなく、今、こうしてみなさんの顔を見て、ホッとしています。長い夏休みを過ごして、少したくましくなったように感じます。

さて、夏休み前に、3年生、4年生、6年生が、被災地の小学生に暑中見舞いを送りましたが、続々と返事が届いています。

心配してくれて、ありがとうございます。ぼくたちは大丈夫です。今、吉里吉里小学校の体育館をいくつかに分けて教室にしています。みなさんからいただいた笑顔と元気で、気持ちを保たれています。どんなことがあっても、希望を持っています。だから、心配はいりません。まだ避難所ですが、あと少しで仮設住宅に入れます。とても楽しみです。

お手紙読みました。とても嬉しかったです。ありがとうございます。大震災で、多くの方が亡くなり、みんなの心に大きな穴が開いたけど、たくさんの人たちに支えられ、少しずつみんな穴を埋めていきたいです。今、大槌町はがれきでいっぱいだけれど、みんなと協力をして大槌町を元に戻していきます。心を一つにして頑張ります。

お手紙ありがとうございます。そこらは暑いですか。お体に気をつけてください。ね。ぼくの家族は、三月十一日の震災で、おじいさんと、おばあさんと、お母さんと、弟を亡くしました。今は、お父さんと二人っきりです。今年は特別な夏になりました。これから家族二人で頑張っていきたいと思います。みなさんも家族を大切にしてください。

いただいた返事を読みながら、体育館を区切って教室にしていることや、いまだに避難所で暮らしていること、家族が亡くなっても精一杯頑張っていること、とても大変な状況が続いていること、いろいろなことが分かり、様々なことを考えました。

はじめは、こういう取組みをして、かえって迷惑になるのではないかという思いもありました。でも、被災地のお友達は、みなさんが心を込めて書いた暑中見舞いを、しっかり受け止めてくれています。

私たちは、これからも、被災地の人たちとのつながりを大切にしていきたいと思っています。この“つながり”は、5年先も、10年先も、ずっと続けていくことが大切です。

そのためには何が大事か。大事なことを一つお話しします。校長先生からのお願いです。それは、『身近な人を大切にしてほしい』ということです。身近な人とは、クラスの友達や家族などです。

2学期は、運動会や展覧会などの大きな行事があります。身近な人を大切に、自分がかんばることが、被災地の人たちの力にもなると校長先生は考えます。身近な人を大切にする気持ちが、遠くの被災地のお友達にも、「人と人とのつながりを大切にする」三小の気持ちとして伝わると思います。